＜司会＞

皆さま、おはようございます。

本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

品川区長定例記者会見を始めさせていただきます。

まず1点ご案内でございます。こちらの画面の資料なのですが、区公式ホームページの区長記者会見ページに掲載しておりますので、ご活用いただければと存じます。

それでは森澤区長より、第4号一般会計補正予算案等について、まずご説明をいたします。

そのあとに皆さまからのご質問をお受けいたします。

終了は10時40分を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは区長、よろしくお願いします。

＜区長＞

おはようございます。

暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

では、座ってご説明をさせていただきます。

本日は、9月21日に開会する第3回定例会で提出する予定の補正予算案と、教育委員会委員候補者の決定、また、職員の品川式360度評価の試行実施についてお話をさせていただきます。

初めに、第3回定例会で提出する予定の補正予算案、8,932万4千円の内容について、ご説明をさせていただきます。

学校でのいじめ問題対応についての区長部局における体制整備の経費や、インフレスライドに対応した各施設の工事費増額などについての補正予算となっています。

まず、区長部局によるいじめ相談体制の整備についてご説明をいたします。

先日、品川区いじめ問題調査委員会より答申を受けました。

これを真摯に受けとめ、答申で示された再発防止に向けた措置を着実に実施していくために、いじめ早期発見・早期解決に向けた対策の強化として、新たに区長部局にいじめ相談窓口を設置し、教育委員会等と連携しながら、いじめ問題に対応してまいります。

内容としましては、社会福祉士や臨床心理士などの資格を持つソーシャルワーカーを活用した相談受け付けと、第三者的な視点で助言をいただくために、いじめ専門相談員として弁護士を起用するなど、いじめ問題解決のための人的支援を強化いたします。

また、いじめ相談を受け付けたり、区のいじめ対策情報などを掲載するいじめポータルサイトを開設します。

また、いじめ情報収集促進チラシを配布し、保護者や地域の方々からのいじめに関する相談を促してまいります。

予算額は475万円となります。令和6年1月の開始を予定しております。

続いて、Chat GPTの導入についてです。

文書の原案作成や、会議などの議事録の文書要約に活用することで、職員の作業負担を軽減させ、業務の効率化を図ります。

また、各課で実施する事業の企画やアイディア出しを行うことなども想定をしています。

予算額は440万円で、導入は今年の11月を予定しています。

Chat GPTの利用にあたっては、個人情報保護、機密情報保護の観点から、情報セキュリティポリシーを遵守し、運用ルールや利用方針をしっかりと定めてまいります。

次に、粗大ごみのリサイクルについてです。

一部の粗大ごみの処理方法を変え、二酸化炭素排出量を減らし、「ゼロカーボンシティしながわ」への推進を図ってまいります。

具体的な対象品目は、プラスチック製衣装ケース、羽毛布団、自転車の3点です。

区では、6月からプラマークのついていない製品を含めたさまざまなプラスチック製品を「資源」として回収し再利用する、「製品プラスチックの回収」のモデル実施を一部地域から開始していますが、その対象外で粗大ごみとして回収しているプラスチック製衣装ケースを、多様な製品の原料となるペレットに加工し、マテリアルリサイクルを行います。

羽毛布団は、羽毛として再利用するほか、表地については固形燃料にリサイクルをする予定です。

自転車の粗大ごみは、リサイクル業者に売却することで、修理したものが再生品として販売されるなど、資源の循環を目指していきます。

予算額は524万円で、12月からの実施を予定しています。

この事業により、年間でおよそ182万トンの二酸化炭素排出量の削減を見込んでおり、今後も二酸化炭素排出実質ゼロの目標達成に向けて取り組んでまいります。

補正予算については次で最後になります。おくやみコーナーの設置についてです。

家族などが亡くなられた際に、ご遺族の方は、さまざまな手続きを行わなければならず、大きな負担となっています。

そこで1カ所ですべての手続きを完了することができる、おくやみコーナーを設置し、ご遺族の方の負担軽減を図ります。

具体的には、区役所3階ロビーにプライバシーに配慮したパーティション付きのブースを設置し、1日最大4組の、事前予約制での運用を想定しています。

区役所で行う手続きだけでなく、必要に応じて、区役所外の手続き方法のご案内なども実施する予定です。

予算額は244万8千円、令和6年1月の設置を目指しています。

補正予算につきましては、ここまでご紹介したもののほか、物価高騰に起因するインフレスライド経費として、障害者グループホーム整備費や、シルバーセンター、児童センターなどの改築工事費を含め、補正予算案の総額は8,932万4千円となります。

続きまして、教育委員会委員候補者の決定について、ご説明をいたします。

教育長と委員4名の合計5名で構成されている、品川区教育委員会の委員のうち、本年10月10日付で保護者枠である教育委員が任期満了となるため、保護者枠の教育委員の公募を実施しておりました。

34名の方からご応募をいただきまして、選考を行い、この度、候補者1名を決定いたしました。

決定の候補者は、子育て支援の地域活動にも携われてきた、3人の児童・生徒の保護者の方になります。

子育ての現場の感覚を生かした率直な意見を取り入れることで、品川区の教育行政のさらなる充実を図っていきます。

なお、決定した候補者については、今度の定例会の本会議に任命同意を経て、正式に任命となります。

引き続き、「子育て・教育で選ばれる　しながわ」の実現に向け、教育の質をさらに高めるとともに、開かれた教育行政を推進してまいります。

最後に、新たに導入する職員の品川式360度評価「Ｉ・メッセージ」について説明いたします。

現在、職員の人事評価は、上司からの一方向で行っていますが、部下や同僚からのフィードバックを受ける、品川式360度評価「Ｉ・メッセージ」の試験導入をいたします。

一般的な360度評価は、短所についても指摘を行うことで、本人の気づきを促し、自己成長につなげることを目的としていますが、指摘を素直に受けとめて、成長につなげるためには、お互いに、どんなことでも言い合える文化が組織内にあらかじめ根づいている必要があります。

品川区ではこのような環境づくりのため、まず、長所にフォーカスしたメッセージのやり取りをスタートいたします。長所にフォーカスしたメッセージのやりとりを通して、職場内でフィードバックを行う文化を浸透させるとともに、職員同士が互いの頑張りを認め合うことで、新たな気づきを得て、自己成長につなげることを目指します。

また、ポジティブなメッセージを送ることで、周囲の人への理解を深めるねらいもあります。

今年度、開始日は今日からになりますけれども、私、区長と総務部の一部職員での試行実施としまして、その結果を踏まえ、次年度以降の実施につなげてまいります。

以上で、私からの説明となります。ご質問よろしくお願いいたします。

＜司会＞

それでは質疑応答に入ります。ご質問の際は所属とお名前をお願いいたします。恐れ入りますが、ご質問は内容をまとめて簡潔にお願いいたします。それではご質問のある方は挙手をお願いします。

＜質問者＞

すいません。読売新聞の岡本です。いじめ相談体制の整備についてなんですけれども、規模としてこれは何人体制の部署というか、ものになるのかと。あと、実施内容で4つ挙げていらっしゃいますけれども、これはすべて令和6年1月から、それとも、チラシの配布とか、早くすることができるのかなと思うんですけど、先行できるものについては、先行してやるんでしょうか。

＜区長＞

そうですね。体制は、相談員は3名で、弁護士の方は1名を想定しております。ちらしは、そうですね、これらの体制が整って、受け付けられるタイミングとなると思うので、ほぼ同時か、少し前なのか、そんな形になると思います。

＜司会＞

他にはございますでしょうか。

＜質問者＞

フリーの小林です。よろしくお願いします。話が一旦日本海側へ飛んでしまうんですけども、品川区ジェンダー平等の推進に関わる検討委員会、長いので、品川区LGBT条例と言わせていただきますが、石川県でも、同じよう、同類のLGBT条例が検討されておりまして、先だって、8月の30日、馳浩知事がですね、記者会見で、今度の9月の議会提出は見送るという報道がされております。で、今、品川区においても同様のジェンダー平等に関する検討委員会が進められていて、条例をということで検討が進んでいるところですが、この石川県の、その条例を見送られたということが、品川区のこの条例の検討においても影響があるのではないかというふうに今、実は考えておりまして、その、石川県のLGBT条例が見送られた、このことについて、品川区としてはどのような受けとめをされているのか。ということと、それから、今後、品川区のLGBT条例案、これについて、例えば議会対応ですとか、それから今後の手続きの予定、それから見通し。それらをお聞きしたいなと思います。よろしくお願いします。

＜区長＞

ジェンダー平等と多様性の尊重について、現在、品川区では検討委員会を設けまして、有識者の方々、公募区民の方々からさまざまな検討を行っていただいておりますので、そちらを踏まえて、今後検討していきたいと思っています。

＜司会＞

その他、ございますでしょうか。

＜質問者＞

朝日新聞、野田と言います。いじめ相談窓口の件なんですけど、この専門部局みたいのは、区にできるのは、区としては初っていう、はい、このつくったことはこの前回のいじめの問題があって受けてだと思うんですけれども、この部局ができることによっての意義みたいなのを教えてください。

＜区長＞

そうですね。私としても、もともと選挙公約でも、こういったものが必要ではないかと、掲げていたのもあります。そして、また今回のいじめの重大事態の件を受けまして、答申を受けまして、やはりですね、ご指摘もいただいております。今回の答申でも、学校や教育委員会への支援体制の不足、そういったところもご指摘がありましたので、やはり外、違った角度から、この事例について、取り組んでいくことが必要ではないかというところで、今回、区長部局に設置することといたします。

＜司会＞

その他、ございますでしょうか。

＜質問者＞

東京新聞の奥村です。本日はありがとうございます。いじめ対策なんですけれども、専門部局、専門の体制をですね、区長部局につくるというところの意義をもう少し教えていただきたい。

＜区長＞

この前、先日の答申でもご指摘をいただいておりますけれども、やはり教育委員会、学校等だけではなかなか解決が難しいというような状況もありますので、やはりこの第三者的なところから、解決に取り組んでいく。客観的に、さまざまな事象をとらえていく、いじめについてですね、ということが必要ではないかと思って、今回、区長部局にこういった体制を整えることといたしました。

＜質問者＞

ありがとうございます。あと1点なんですが、いじめポータルサイトのイメージをもう少し湧かせたいんですけれども、例えばどういった方からどういった相談を受けるっていうのは、想定されていますか。

＜区長＞

そうですね。もちろん保護者の方というのもあると思いますし、場合によっては学校で、保護者以外の方っていうこともあり得ると思いますし、地域の方というのもあるかと思いますが、インターネットを通じて、いつでもそういったことが相談、受け付けられるというような体制をとりたいと思っております。

＜質問者＞

専門のフォームか何かで情報を受け付けられると。

＜区長＞

そうですね、はい。

＜質問者＞

わかりました。ありがとうございます。

＜司会＞

ほかにございますでしょうか。

＜質問者＞

よろしくお願いします。現在、行われている品川区民アンケート、当初予定では8月末締め切りということだったんですが、先だって区長も、SNS等で、9月後半まで増えましたので、どうぞご応募はっていうか、そのご回答ということなんですけども、その辺は、なぜ遅くなってしまったとか、その辺のことをちょっと詳しく教えていただければなと思うんですが。

＜区長＞

そうですね。単純に円滑に発送ができるように地域を分けて、郵便局の体制もありますので、調整をして、分割して、3回に分けて発送して、それぞれやはり少し到着の時間が、ずれがありましたので、十分な回答期間をとるために延長したということになります。

＜司会＞

その他ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは質問もないようですので、区長記者会見をこれにて終了いたします。

なお、会見会場以外での撮影をご遠慮いただいておりますので、何卒よろしくお願いします。

ご参加どうもありがとうございました。